

は土佐國長岡郡にて、神名帳に所謂長岡郡石土神社あり、此社石鐵山の東南の麓にて、俗に是を前神と云、山上の神を奥院と云、此神名は古事記に次生石土昆古神、註訓石云伊波とあると同じ神にて、伊波都知なること、後世誤ていししつちといひけるなりと、土佐高明志といふものにみえたりと、玉井春枝かたりき、横峯寺にある正保五年本堂再建の棟札にも、石土山別當大願主權大僧都堯賢敬白と見たり、古は石土と書し事しるし、山容峻くして、太く神さびて、此國內に秀たる高山也、昔役小角始て此山に登り、其後石仙といふ道人、山路を開き、絶頂に神を祭りけるよし、雪は五六月の頃消て、八九月の頃より積れり、毎年六月、諸人登山するもの多し、大戸といふ所入口なり、麓より九里八町ありと云傳れども、さまではあらず、又大保木といふ所よりものばる、萬葉集山邊赤人歌に、極此疑伊豫能高嶺とよめる是なり、

〔日本靈異記下〕智行並具禪師重得入身生國皇之子縁第卅九

伊豫國神野郡郷内有山名號石鎚山是即彼山有石槌神之名也、其山高峰而凡夫不得登到仕淨行人耳、登到而居住、○下略

〔年中行事大成四〕六月一日

石槌山前神寺參伊豫國新居郡にあり四國遍路の札所にして、麓より十二里、常に山上を許さず、詣人は里前神に札を納む、今日より三日の間登山を許す、

石槌山は、四國の一高山にして、嶮難いふばかりなし、登山の者は三十日の間精進をなす、麓より二里半餘登れば、其上に壁を立たる如き岩あり、其岩の頂より、十五間ばかりの鐵鎖を下せり、諸人其鎖に取付、手繩にして登る所貳ヶ所、又其上へに二十間ばかりの鎖を下げ、壁立したる巖に登、あやまつて手を放てば、忽ち千仞の谷に陥つ、其危き事言語に絶たり、登山の行人此所までは競ひ登るといへども、此鎖に至て心臓し、間登得ざる者あり、然る時は先達其者を呵責して、罪障